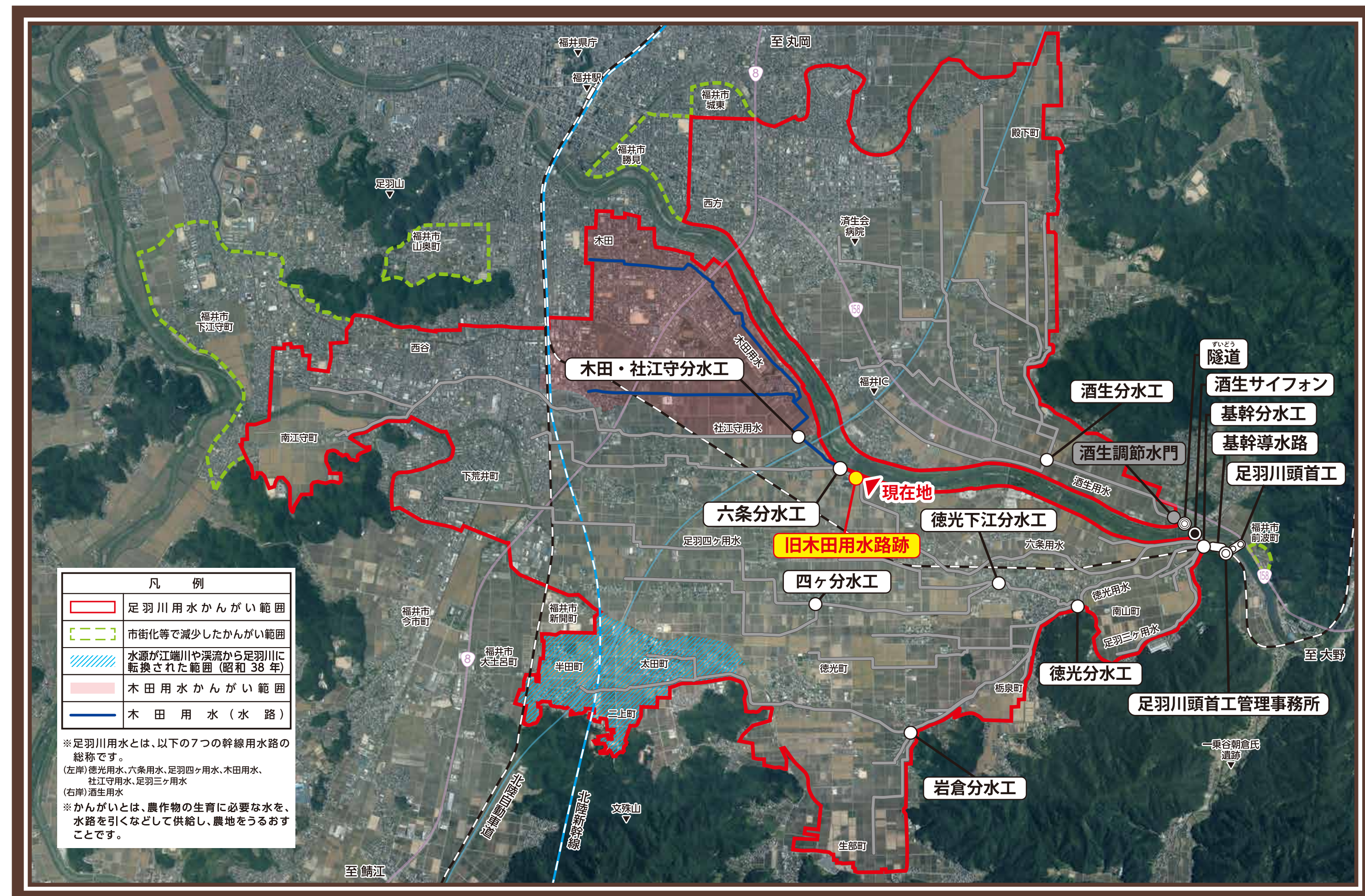


# 旧木田用水路跡

文化4年(1807年)以降、昭和38年(1963年)の足羽川頭首工の築造までの約150年間、この場所には、足羽川から取水した水を福井市小稲津町・下馬町・板垣町・木田町・別所町・大町・山奥町の農地へ届けるための用水路(以下、「旧木田用水路」という。)がありました。

昭和38年(1963年)の足羽川頭首工の竣工によって、旧木田用水路を含む足羽川に設けられていた複数箇所の取水口が合口化され、足羽川から直接、取水を行う役目は終えました。現在、上記農地へのかんがい用水は、足羽川頭首工上流の左岸側に設けられた取水ゲートから基幹導水路・基幹分土工を経て六条用水路を流下し、この先、木田・社江守分土工地点で各地域へ分水され、現在、約105haの農地をかんがいでいます。

道路の下にあるこの石積は、当時の旧木田用水路の一部です。また、後ろ手前の水路を含む一帯の親水空間は、県営農業用水再編対策事業足羽川頭首工地区(平成10年～20年)で整備されたもので、現在も当時の面影と潤いある住環境をもたらす施設として、地域で大事に管理されています。



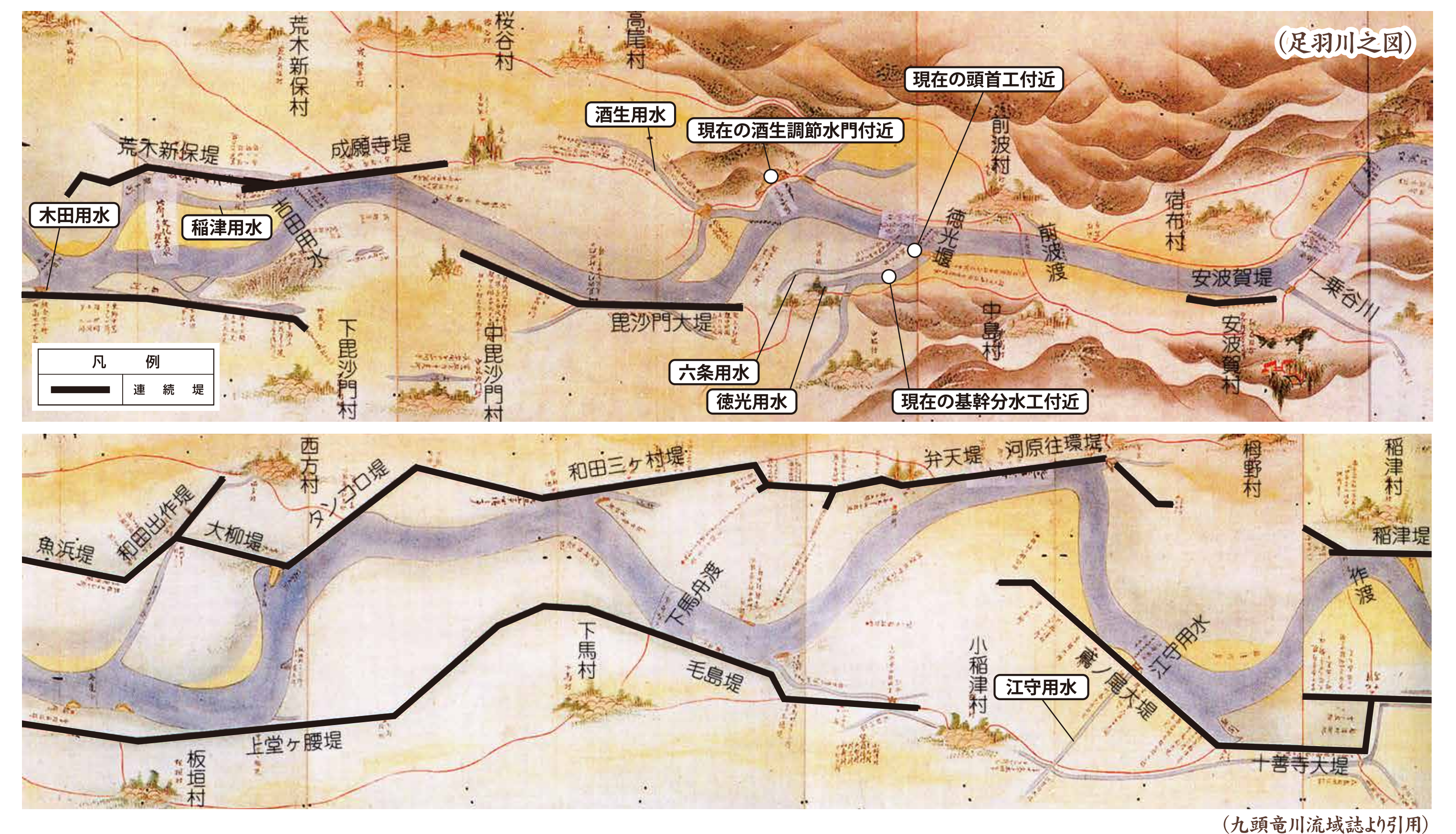
## 【足羽川用水とは】

足羽川用水は、福井市南東部にある足羽川頭首工より取水し、約2,000haの広大な農地をかんがいの幹線用水路の総称で、7つの幹線用水74kmからなります。

用水の始まりは、奈良時代(7世紀頃)に開かれた荘園内の原始的な水路であると云われ、足羽川から直接、各用水を取水し、渇水期は絶えず水争いが続いていました。しかし、江戸時代(1710年頃)になると、用水奉行 戸田弥次兵衛公により、複数の用水を統合する当時としては珍しい合口のための堰の設置や、水路の分水地点に定石を布設し水争いを緩和するなど、現在の足羽川用水の礎を築いたと云われています。



また、江戸時代末期の状況を伝える「足羽川之図」には、福井城下を洪水から守るための連続堤や三角又などの水制、農業用水を取り入れるための堰堤も多く見られることから、足羽川は、藩政時代からすでに人工河川化が進展するとともに、かんがい用の水源としても重要な役割を果たしていたと云えます。



## 【世界かんがい施設遺産に登録(県内初)】

平成28年11月8日に県内で初めて、足羽川用水が「世界かんがい施設遺産」に登録されました。

### 世界かんがい施設遺産とは

かんがいの歴史・発展を明らかにし、施設の適切な保全につなげるため、国際かんがい排水委員会(ICID)が平成26年に創設した制度です。

登録要件(一例)	建設から100年以上経過した施設のうち、卓越した技術により建設されたもの。かんがい農業の発展に貢献したもの。
----------	--



※足羽川頭首工管理事務所前にある大型看板では、詳しい内容を説明しております。